

2024 年 度 事 業 報 告 書

2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 その人を中心とした認知症ケアを考える会

1 事業の成果

- 1) ・研修事業では、大塚智丈氏による特別講演会ははじめ、年間6回、当会主催の研修会を開催した。新型コロナウイルス感染拡大以来、Zoom（オンライン会議システム）によるオンラインを中心に事業を実施しており、2024年度も、公開講座のみ対面開催にて杉並区で実施した。
 - ・埼玉県、新潟県、香川県、福島県、千葉県、神奈川県、豊島区、台東区、杉並区より依頼を受け、講師を派遣し、多数の専門職、市民の人達の参加があった。
 - ・公開講座は、杉並区にて東京都多摩若年性認知症総合支援センター長および若年性認知症の当事者の方にご講演頂き、好評を得た。
 - ・Café VIPSも、隔月第3水曜夜に継続し、実践をふり返り、意見交換する場として定着しつつある。12月には、能登半島地震・豪雨災害と支援状況について水上幸夫氏より報告頂き、その後被災者支援募金を実施した。
 - ・年数回、NP0シルバー総合研究所との共催で、パーソン・センタード・ケアミニ勉強会やマッピング勉強会を継続し、交流を深めている。
- 2) 健康事業では、引き続き、国立市の居場所づくり事業ひらや照らすにおけるメモリーカフェを月1回開催した。“おれんじメモリーカフェ”と改称し、認知症の当事者、家族の方にも参加頂き、介護経験者との相互交流や、近隣の専門学校の学生や教員の参加や学園祭への訪問等を通して当事者を含む多世代交流の機会となっている。
- 3) DCM支援事業は、JPDネットワーク新潟マッパーの会の勉強会に参加協力させて頂いた他、DCM推進施設でのDCMを活用した事例検討にも協力した。
- 4) 調査研究事業は、次年度、視聴覚教材ガイドブックの改訂に向けて準備中である。
- 5) 交流事業では、ニュースレター発行（年2回）、ホームページに年間約10数回、活動案内や活動報告、関連情報等を投稿、発信し、情報提供や交流に努めた。
- 6) 管理面では、9月に主たる事務所を杉並区に移転した他、会員は減少傾向にあるものの、事業収益も漸増しており、管理費の削減の努力を続けつつ、当会の強みを生かした持続可能な活動を継続し、今後も運営に努力したい。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1) 認知症ケアに関わる様々な専門職による、その人を中心とした認知症ケアに関する研究会・学習会事業	1.特別講演会：大塚智丈氏 2.公開講座：若年性認知症当事者・来島みのり氏 3.講演会：渡辺恵美子・このみ氏 4.実践者の為の学習会ⅠⅡⅢ 5.講師派遣：10回 6.Café VIPS：6回 7.シルバー総合研究所共催パーソン・センタード・ケア・ミニ勉強会、マッピング勉強会4回	5月 8月 1月 8、1、3月 5～2月 4、6、8、10月 12、2月 4、8、9、1月	Zooによるオンライン開催 〃 鴻巣市2回、香川県、千葉市、胎内市、豊島区、いわき市、神奈川県、台東区、杉並区 オンライン開催 オンライン開催	のべ 60名	東京都ほか各地の認知症ケアに関わる専門職、支援者、家族ら 約600名	464
2) 健康増進事業	1.くにたちひらや照らすおれんじメモリーカフェ11回	4月～3月	国立市	のべ 30名	地域住民、高齢者のべ約160名	23
3) 認知症ケアマッピング支援事業	1.吹上苑DCM支援 2.新潟マッパーの会 3.JPDネットワーク10周年協賛	9、12、1月	オンライン開催 鴻巣市、新潟市	のべ 3名	認知症ケア専門職約40名	4
4) 認知症ケアの質向上のための調査・研究	1. 視聴覚教材有償頒布4件	6月～3月	国立市、オンライン会議	のべ 5名	認知症ケアに関わる専門職・一般市民	0
5) 情報提供および交流事業	1. ホームページにて情報提供。 2. ニュースレター発行	随時 4月、10月	国立市ほか	のべ 20名	ケア専門職ほか一般市民、会員のべ250名	10
6) 他目標達成のための事業	1. 能登半島地震・豪災害被災者支援募金	2月		のべ 9名	会員のべ15名	135

